

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871500514		
法人名	社会福祉法人淡鳳会		
事業所名	グループホームフローラ		
所在地	兵庫県洲本市鮎屋字久シ原636		
自己評価作成日	平成22年6月18日	評価結果市町村受理日	平成22年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102		
訪問調査日	平成22年6月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人を思いやる笑顔」を事業所の理念としている。理念に添って職員は、利用者様に対しての、援助を行っている。
また、食事の面では、毎食手作りで、温かいものは、温かい内に提供し、利用者様にアンケートも行い献立を作っている。

田畑・山野が見渡せる明るい大きな窓から、季節の変化が身近に感じられるフロアは清掃が行き届き、観葉植物や季節の花を飾りゆったりとした雰囲気の中で利用者はソファで思い思いにくつろがれている。利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、地域主催の菜の花祭りへの参加や、「ふれあいいきいきサロン」に出かけ、また、フローラ主催の夏祭りに地域の方を招待するなど、地域の高齢者の方との交流を持っている。職員は利用者と日々関わる中で、利用者の尊厳を大切にしながら、一人ひとりの表情や動きなどから思いを汲み取り、それぞれのペースで1日が楽しく過せるように支援している。協力医療機関の往診に加え週1回の訪問看護師の訪問を受けており、健康管理体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年グループホームとしての理念「人を思いやる笑顔」をつくり、月1回のケア会議にて、職員と振り返り実践につなげていくようにしている。	「地域社会の一員として利用者が暮らせる」文言を盛り込んだ法人理念・基本方針を基にグループホーム独自の理念を職員で話し合い「人を思いやる笑顔」の言葉を追加して、全職員で理念の浸透が図れるように取り組んでいる。	グループホーム独自の理念を基にり具体的にケアの実践に活かせるように職員と共に話し合い理念実現に向けた取り組みが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度と同様、県事業のデイに参加し、また、地域主催の菜の花祭りに参加、本年度の合同夏祭りには、地域の中学校のプラスバンド部が参加予定	フローラの夏祭りは、地域の方を招待している。また、地元の中学校のプラスバンド部の来訪を受け積極的な交流の機会を予定している。ホームからは、年1回の地域主催の菜の花祭りへの参加や「ふれあいいきいきサロン」に月1回出かけ、地域の高齢者の方との交流を持っている。散歩に出かけた時には、近隣住民と挨拶や立ち話をしたり、地域の店におやつなどの買物に行き交流を持っている。今後は地域の一員として暮らし続けるために地域の清掃活動への参加も検討中である。地元で暮らしている管理者・職員を中心に地域との交流が積極的に行われ深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域代表の方が2名出席されているので、事業所への要望、意見等を聞かせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の報告は運営推進会議で行っている。市や地域包括の職員さんも出席してくれているので、報告し、アドバイスも頂いている。	利用者・利用者家族代表・地域住民代表・介護福祉課職員・地域包括支援センター職員・地域の病院事務長・病院社会福祉士の方参加により2ヶ月に1回開催している。会議では、行事報告やホームの状況報告が行われ、各構成員からの活発な意見が出され話し合いが行われている。構成員からの意見で地域へ利用者が積極的に向くことができるような話し合いが出来ている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヵ月に1回の運営推進会議で、市の方が出席してくれているので、報告しアドバイスも頂いている。	介護福祉課からのメールでの情報提供を受け不明点などの問い合わせを行ったり、ホームで問題があれば介護福祉課に相談に出向き交流を持つようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、マニュアルにて具体的な行為については、把握している。	勉強会で身体拘束をはじめスピーチロック、心理的拘束についても具体的な例をあげ理解を深め、身体拘束をしないケアの実践を行っている。また、日々のケアの中でも職員同士で何気ない言葉の拘束が行われないように注意喚起している。各フロアーの入り口については、安全確保のためやむおえず施錠しているが、利用者の言動に注意し利用者個々に合わせて外に出ることができ、閉塞感や抑圧感のないように支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人での接遇についての勉強会があり、事業所の職員も全員参加した。	法人研修の「接遇振り返り研修」で虐待防止について具体的な事例を取り上げ話し合いを持ち周知徹底を図っている。	今後も研修の継続を行い、全職員で知識と理解を深めるような取り組みを期待する。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に対して、学ぶ機会をもうけていない。	現在まで制度を利用した方がおらず、制度について職員の理解が深まるような取り組みを行っていない。	研修・勉強会を行い、制度の利用が必要な利用者がスムーズに制度利用が行われるように理解を深める取り組みを期待する。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、支援員とも、入所申込時、契約前には、本人様、御家族様には充分説明し、納得の上署名、捺印をもらっている。	管理者・ケアマネジャーが見学・入居申し込み時より分かり易い言葉で契約内容を説明し同意を得るようにしている。契約の解除に関しては、細かく説明しており、現在までトラブルはない。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、職員とのコミュニケーションを行いました、家族様とも面会時に要望、意見等を伝えて頂ける様に話をしている。	家族面会時には、職員から声かけを行い利用者・家族が意見や要望を言い易い雰囲気作りにも配慮している。また、電話連絡時などにも意見や要望を聞くように話かけをしている。日常的に、利用者からケアの中から聴取した意見や要望は、管理者に報告され職員間で情報を共有しサービスに反映させさせるように、速やかにケース会議やケア会議等話し合いサービスの質向上に役立てている。家族からの意見は速やかに報告している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を、1/月開催し、職員の意見・提案は運営者には、法人合同会議で管理者が言っている。	今年度よりリーダー職を配置し、スタッフがより意見を言いやすい環境づくりが出来ている。管理者は、合同会議で職員から法人への意見を聴取し報告している。対応が急がれる意見は、適宜報告され話しあいを持ち運営に活かしている。顔馴染みの関係性を大切に考えており、職員異動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度から、法人として「国家資格取得者」には、祝い金が給付するようになり、職員の向上心につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は、職員2名が、他のグループホームへ実習に行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員は、連絡会に参加し、また、管理者は、他の施設の管理者と、たまに情報交換をしている。 管理者会議等には、出席はしていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、利用者様とお会いし、現在の生活、生活歴等を聴き、また入所後の希望を聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には、時間をかけての話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の事業所と連絡を取り、本人、家族様の希望にそえる様にしている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の業務の中でコミュニケーションを取り、お互いの立場を理解できる意識をもつように、常に職員は心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族との、絆を大切にする為、家族参加の行事を増やし、利用者様と接してもらう時間を作っている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由で、制限はしていない。 外出・外泊も家族様の協力のもとで行っている。	昔馴染みの方の来訪された場合は、場所の設定やお茶の接待をして面会が気持ちよく出来るように配慮している。利用者の希望により地域の馴染みの場所へ出向けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションは、自由にしている。また、トラブル等は、生じないように心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様への電話は、おこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の状態や、希望に合わせ支援している。 また、本人のペースを崩さないように心掛けている。	利用者とは日々関わる中で、一人ひとりへ思いを表しやすい声かけの方法を工夫し、聴取した言葉や行動から利用者の思いや意向を利用者の立場に立って把握するようにしている。 また、職員は利用者とは日々関わる中で、利用者の尊厳を大切にしながら、一人ひとりの表情や動きなどから思いを汲み取り、それぞれのペースで1日が楽しく過せるように支援している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面接にて、多くの情報を本人、家族様より得ると同時に、本人の了解を得て、他の関係者より情報を頂いている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の様子は、職員間で共有し常に新しい情報を申し送りしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、実現可能で継続していけるものを作成している。	初回アセスメントを行いケアプランを基に援助計画を作成している。支援経過表でケアの実施状況・利用者の状況把握を行なっている。定期的なモニタリングを行い、毎月のケース会議で一人ひとりについて実践状況を確認している。評価の結果、計画の見直しの必要性を確認して些細な変化を見逃さないようにしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・個人ケアチェック表は、個人ファイルとして、一人1冊にまとめ全職員が見れるようにしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・買い物同行・金銭管理等は、利用者様・家族様のその時の状況に応じ、サービスを提供するようにしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所にボランティアが来所しての行事、また、地域中学校への体験学習の来所要望をしている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には、協力病院の説明や、受診の付き添いの援助の基本的なルールを説明し、理解頂いた上で往診や受診を行っている。	協力医療機関より月2回の往診があり、健康管理が出来ている。利用者・家族の希望の医療機関への受診も可能になっている。体調に変化があれば適宜家族に連絡を取り受診支援している。家族の状況に応じて職員が受診同行を行なっている。更に週1回の訪問看護の訪問を受けており、協力医療機関との連絡が取れる体制を整えている。協力医療機関には認知症の専門医の診察も可能となっている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、週1回の看護師が来ている。また、協力病院の看護師には、常に相談にのって頂いている。	/	
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所は、協力病院が近くにある。また、日頃から医師・看護師との連携を密にしている。その他の病院の場合は、家族様を通じて病院との情報交換をおこなっている。	利用者の入院時には、管理者が入院先に向き、看護連絡表で情報提供している。入院中の経過は、管理者が病院へ出向いたり、電話で病院看護師より情報提供を受けている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、契約時に事業所の指針を文書にて説明している。病状が特に悪化した場合は必ず管理者・介護支援専門員と家族との話し合いを持つようにしている。	契約時より重度化や終末期の対応方針を説明している。身体状況が悪化するれば、入院するようになっている。 見取りまでの経過の中で、本人にとって、十分な看護や医療を受けることが必要となった場合においては、家族と相談の上入院治療を優先させている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、それに沿った勉強会等もおこなっている。	/	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 消防・非難訓練を行っている。	年2回昼夜想定で消防・避難誘導訓練を行っている。地域の方にも協力依頼を行っており、災害時の協力体制も整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報使用の同意を得て、条件の範囲内で使用している。	契約時に個人情報保護についての方針を利用者家族に説明し同意をえて理解と協力を得ている。利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないように注意をしている。	研修や勉強会で人格の尊重や尊厳・プライバシーについて知識と理解を深めるような取り組みを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と会話をする時間を多くし、利用者様が納得するまで話を聴くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の支援については、その都度本人の希望にそうようにしている。ホールの掃除、食器拭きは、手伝ってくれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問理容をほとんどの利用者様が利用しているが、本人希望で美容院に行かれる方もおられる。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者様のご希望を聞いて作っている。また、食事は職員が作っているが、時には、下ごしらえを利用者様がされるときもある。食器拭きは、利用者様の日課である。	利用者の希望や季節感を取り入れたメニューを作成し食材搬入を受け手作りの調理から配膳、後片付けを利用者と共に行っている。利用者の希望により寿司の出前を取ることもある。食事についてのアンケートを3月に実施しており、今後年3～4回実施し食事が楽しいものになるように取り組んでいる。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所には、栄養士がいないので、法人の栄養士に聞き、また、利用者の状態に応じて職員が調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし、利用者様が出来ないところは、職員が支援を行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様個々に応じて、声かけ、または、介助にてのトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握している。把握できたパターンを基に排泄誘導を行い自立に向けた支援が行なわれている。個別にプライバシーに配慮して行っている。出来る限り食べ物で自然な排便があるように工夫しているが、便秘が強い場合は、医師に相談し薬を使用して排便コントロールする場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分行い、また、食事に関しては朝食にバナナ・ヨーグルトを取り入れ、毎日のラジオ体操、室内歩行運動を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応、利用者様の入浴日は、決まっているが、利用者様のタイミングに合わせて曜日変更はしている。	利用者のプライバシーに配慮した個浴で、利用者の状況や体調により曜日や時間を変更し週2回は、入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	グループホームでの1日の生活の流れ等はあるが、利用者様の希望、体調等に合わせる様になっている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬表をファイルして、都度確認、職員間の申し送りは必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士の会話等には、入らないようにしている。また、2ユニットの合流での行事等を行う場合は、移動のお手伝いをして頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節、天候、利用者様の体調などを見ながら、散歩に出掛ける様に努めている。月1回の行事では、外出をする様に努めている。	天候が良い日は、利用者の体調に合わせて散歩やドライブをしている。月1回の行事は、外出するようにしており、利用者の希望や季節を考えてて外出先を決めている。今年度は、個別の外出支援が出来ることを目標に掲げて実施に向けて計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様希望で、事務所にてお小遣いをお預かりしているが、欲しいもの、また、お買い物ツアー、外出時等は、職員、ボランティア付き添いのもとに使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかってきた場合は取りつぐ。また、電話をかける時は、前もって家族様の状況を確認しかけている。現在は、手紙のやり取りはない状況。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、広く外からの光も十分に入って、利用者様はテーブルを囲んでお話されたり、トランプ等され楽しまれている。また、窓側にあるソファに座りくつろがれている。壁には、その月の特徴がわかるように貼り絵等をしている。	田畑・山野が見渡せる明るい大きな窓から、季節の変化が身近に感じられるフロアは清掃が行き届き、観葉植物や季節の花を飾りゆったりとした雰囲気の中で利用者はソファでくつろがれている。また、アイランドキッチンから利用者の動きが見渡せる作りとなっており食事作りの匂いや音など五感刺激となっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側には、ゆったり座れるソファを置き一人で座りくつろげる様、また、3名は、座って話ができる様にしている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活歴や、希望に応じての居室への持込を配慮している。また、利用者様中心の居室の清掃・整頓を行う様に職員が支援している。	キッチンや共有ペースが見える居室は利用者様が持ち込まれた馴染みの道具を使い易く置き、整理整頓が行き届き、安心して過せる空間作りができています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人々とゆとりを持った会話をし、また、対応する様にしている。		